



# AA日本ニューズレター

## No.165

### ■A類常任理事に就任して

A類常任理事 荒木龍彦

4月1日付けにてAA日本常任理事会のA類常任理事に就任させていただくこととなりました。どうぞよろしくお願いいたします。保護観察所にまだ在職中のため、私自身、一時は躊躇した面がありましたが、所管の法務省保護局から「支障なし」との回答を受け、また長年お世話になっておりましたAAの皆さまからの強い要請でありましたので、お受けすることといたしました。

歴代のA類常任理事の方々のお顔ぶれを思い起しまでも、私のような者にこの重責が務まるかどうか、そしてAAの皆さまの御期待に十分に答えられるかどうか、はなはだ不安ではありますが、お引き受けた以上は、誠心誠意務めたいと思っております。知らないことも数多くあり勉強をしながら進めてまいりたいと思っておりますので、皆さまからも何かとご教示賜りますようお願いを申し上げます。

AAの皆さまとのおつきあいは平成2年以來となります。参加したオープンミーティングで、3度服役経験を持つ方がAAのプログラムに出会って以降、長年にわたり犯罪や問題飲酒とは遠ざかっていきいきと生活しておられると知り、感銘を受けたことが始まりでした。以後多くのAAメンバーの方々に接し、励まされながら、アルコール問題がある保護観察の対象となる人たちの回復の支援について希望を持って取り組んで来たところです。

刑事施設収容中の人たちや保護観察を受けている人たちの中には、アルコール問題に的確に対処することができないために特定の犯罪を繰り返し、苦悩している人たちが今もたくさんいます。この度の機会に、各地での矯正・保護メッセージフォーラムの開催へのお手伝いなどを通じ、刑事施設や保護観察所とAAとの交流がいつそう進み、まだ回復への道筋が見えないでいるアルコールの人たちにAAのメッセージが届けられるように積極的に取り組みを進めてまいりたいと思っております。

全国のAAメンバーの皆さまには、刑事処分歴があるアルコール依存症の人たちが回復し、同じ経験のある人たちの支えになっているということについて知っていただき、新たにAAの扉をたたこうとする人たちをこれまで同様に温かく迎えてくださるようにご理解を得ていきたいと思っております。また、刑事処分歴をお持ちで、今は、AAのプログラムにより回復しておられるより多くの方々に、その貴重な体験を生かしていただき、この取り組みにお力添えをいただきたいと切望しております。

この仕事を与えていただきましたことを通じて、たくさんのAAメンバーの方々、そして関係者の方々との出会いがありますことを楽しみにしております。

### ■B類常任理事新任の挨拶

B類常任理事 石塚

このたび第19回評議会でB類常任理事に信任されましたアルコール依存症の石塚です。関東甲信越地域、南多摩地区、八王子グループです。17年前、精神病院に助けを求めた時、閉鎖病棟に入れられ、おしめをされ、尿道にクダを通され、拘束され、24時間点滴が何日も続きました。ベッドで暴れまわりました。せん妄が治まった時、初めてお酒を止めて生き直してみたいと思いました。でも次に来るのは絶望だけでした。その病院にはAAメッセージが入っていました。絶望をほんの少し希望に変えてくれたのが、メッセージの人達の飲んでいない姿でした。でも自分が同じことをしてもお酒が止まることは無理だろうと思いました。絶望と希望がぐるぐる回っていました。何もしなければ必ず飲むだろうとは確信していました。ダメでもいいからやってみようと思い、AAミーティングに通い始めました。退院してAAにつながることができました。

25年間、飲み続けるなかで両親も兄弟も友人も会社の人も、そして自分自身も自分がアルコール依存症という病気であることを知りませんでした。もちろんAAのことも。ミーティング場から駅までに出会う人にAAのことを尋ねてもおそらく知っている人はほとんどいないでしょう。

今苦しんでいる仲間は、かつての自分のように自分が病気であることも知らず、AAのことも知らず、自分を責めながら、どうしてこうなってしまったのだろうと悩みつつ、今も飲み続けているのです。彼らにどのようにしたらメッセージを運べるかを考え実行していくことがAAの目的だと考えています。常任理事の役割は、12のステップを使い、12の伝統、12の概念、評議会憲章、常任理事会準則に従い、評議会の良心を実行してゆくことだと考えています。

でも、一人ではできません。みんなで一緒にやっていきたいと考えています。ご協力、よろしくお願いいたします。

B類常任理事 重黒木

2014年4月から西日本圏選出でB類常任理事を務めます重黒木(じゅうくろぎ)です。ホームグループは宮崎県地区”のびようか”グループです。



18歳での飲みはじめから大量飲酒で20回ぐらい内科、外科の入院を繰り返しても、飲む量を減らそうとか飲むのを止めようとは思いませんでした。しかし11年前の47歳のときに心身ともに底をつき精神病院へ入院(半強制的に)になりました。生死の境を抜けた後、はじめて飲まずに生きることを考えてみるようになったのですが、考えるだけで頭が痛くなりました。アルコール治療プログラムのない閉鎖病棟の病院でしたが、そこにもAAのメッセージは届いていました。退院したその日をどう過していいのかわからなかったが、同じ日に退院したアルコールに同行をお願いしてミーティングに参加したのが私のソーバーの始まりです。半年ぐらいたった頃にグループの会計をやらせてもらい、一年半ぐらいでグループ代議員として地区委員会に参加しました。最初はたったこれだけの事を決めるのに何を回りくどい議論をしているのだ、結論は決まっているじゃないかと、怒りのような感情が沸きあがる参加でした。それまでの私の生き方は、責任は俺が取るから俺のやり方にみんなはついて来いというやり方で、うまくいかなかったら責任を曖昧にして何もなかったかのような顔をしてやり過ごすという物でした。そんな私にとって、AAのサービスのやり方は最初の戸惑いから、すごく新鮮なものに変わっていききました。

その後、地区、地域の役割、評議員と切れ目無く何かをやらせてもらってきました。そうやってAAのサービスを続けていく中で、少しずつ何かが変わっていききました。自分の考えを自分でやることだけしか考えられなかったのに、自分の考えを仲間に話しみんなで決めたことをやるのが、とても楽にやれるという生き方だと気づきました。

3年前に評議員として評議会に参加して、各議題に参加メンバーが本当に真剣に討議をし評決をして様子にとっても感動しました。それまでにオブザーバーとして3度評議会会場に行きましたが、自分が評議員として議事に参加するのはまるで別のものでした。私がこうだろうと決め付けていたものとは違った評決が出たりすると、私の考えが及ばない全国の仲間の声なのだと思えました。評議会での経験を通して、いろいろなサービス委員会などで発言の機会を持たない仲間の声を、どう聞こうとしているかが問われるのだと思えました。

日本でAAが始まって40年、今の評議会機構が出来て20年が経とうとして、メンバー数の停滞や財政の悪化等いろいろな問題を抱えています。グループ数は増えるのにメンバーは増えない。私は、先行く人たちが作り上げてきたAAの中で飲まない生き方をいただいたけれど、それをまだ苦しんでいるアルコールを助けるため先人たちのように必死でサービスをやってきだらうかと自問をします。

B類常任理事として何をどうやればいいのか、まだ何も分かりません。不安もありますが、AAのサービスのことが何も分からずに初めて出席した地区委員会よりもまだ安心です。AAのサービスの目指すところは一つだという事が、今は分かっていますから。

## B類常任理事 増田

第19回評議会でB類全国常任理事に信任していただきました増田と申します。立候補時の『推薦承諾書』と重複する部分もありますが、ソーバーとなってからの大まかなプロフィールを記述させていただきます。

ラウンドアップ実行委員会への参加と「25周年」や「サービスフォーラム」実行委員会への参加。地域文書委員会での「スポンサーシップQ&A」の企画開催、地域としての「代議員オリエンテーション資料作成」にもたずさわらせていただきました。

平成13年より勤務させていただいたJSOにおきましては微力ですが“AAの友人”を増やすため、常任理事を主体とし微力ながら地域との連携のもとにいくつかのアプローチを行ってきました。常任理事としての活動の場を与えられた現在、その活動をさらに進めたいと考えております。(当原稿校正中に、担当は「広報担当」となったことを付け加えておきます)

しかし私は残念ながらNPO法人の理事には選任されませんでした。NPO法人はAAに関係なく、定款ののっとり活動しているわけで法人として何ら問題はありません。只、法人が主体となる活動において、その中心は法人内での決定権を持つ法人理事のどなたかが担う事になると思います。

ここで皆さんに考えて頂きたいのは、我々の活動や何気なく使ったり利用したりする(BOX-916、ニューズレターなども含んだ)書籍の発行やイベントも全て法人主催となるということです。我々はAAの運営に対し考える時期に来ているのを教えていただいたのかもしれない。

今後、与えられた役割の中で常任理事として多くの人にAAを知って貰うための活動と、AAの運営がグループの良心に基づくものを原点となるよう運営方法の改善に取り組んでいきたいと考えています。

## ■常任理事会より

### ～輪番～当たり前のことですが

常任理事会議長 中村

**当たり前のことですが:** 去年の秋口、年明けからの議長職を前期三名の中のどなたかをお願いします。と当時議長の服部さんから切り出され、私は啞然としてしまいました。がしかし、AAはサービスの役割を次々と新しい人たちに手渡して行く～輪番～によって引き継がれて来た事を思えば、至極当然の申し出であることを再認識しました。

しかし、議長職となるとこれまでのように自分の意見を出し難いという懸念もあって、私としては『他の誰かが、何らかの方法で、どうかして欲しい』という、持ち前の性格上の欠点が見え隠れしていました。

**そして誰が:** 結果、この二年間ご一緒して頂いたA類常任理事一名とB類常任理事三名が任期を終えて退任し、新たにA類常任理事一名とB類常任理事三名が入れ替わりに加わって、常任理事会の顔ぶれが一新されることになりました。

前期を終える三人の間でそれぞれの適性を話し合い、私が今年度から二年間、常任理事会議長を務めることになりました。各グループ及びメンバー各位には、評議会および常任理事会へのご意見やご要望そしてご支援を賜りますように、よろしく願いいたします。

**襟を正して、AAサービスの基本に学ぶ:** ビルとボブが、ワールドサービス遂行の為に評議会機構を設置してグループから直接意見を聞くために代議員を設けたことは皆さんも知るところです。

ワールドサービスという、私たちの日常の AA 活動からもっとも遠いお話に思われるかもしれませんが、実は私たちに一番身近なビッグブックの発行に由来しています(「AA 成年に達する」p219～331 をお読み下さい)。

常任理事会は「AA の基本テキスト」であるビッグブックを広報の道具として使い、いま苦しんでいるアルコールに届くように、地域社会に普及させることが主な使命であることを再認識できます。

**ビッグブックのこと:** 日本のビッグブックの頒布状況とメンバーのミーティング活用頻度を考えたとき、私たち常任理事会は何とか在庫数を増やす工夫をグループ及びメンバー各位のご協力のもとに考えて頂きたいと願っています。書籍印刷物の頒布価格は、一度に印刷する数量が多ければ原単価が下がり頒布価格も下げられる仕組みですから、たくさん印刷してたくさん売れる見込みがあるなら書籍価格を下げることも可能なのです。つまり、書籍の価格とは私たち AA メンバーの活動次第で変えられる部分が大半を占めていると考えられます。

**ワールドサービスの恩恵～ビッグブックの他言語翻訳:** こうして、ビッグブックの発行は世界中のアルコールに AA プログラムを間違いなく届けて行くという AA ワールドサービスの根本的な理念の許に、より多くの地域社会に AA を知ってもらおう広報の為の道具とも云えます。

私たちの日本語版ビッグブックは、このワールドサービスの国際出版基金で発行された歴史があります。国をまたいでその国々の言語に翻訳される際、AA の本質が誤って伝えられないように NY, GSO が厳格な著作権の管理を行います。そして、AA プログラムの普及と共にサービス機構が立ち上がり経済的に自立し、また評議会機構サービスの自律的運営が確認された時点で、その国の言語で AA 評議会承認出版物を翻訳発行してゆくことを NY, GSO は認めます。言い換えると、メッセージを届けてもらった英語圏外の国々は、ビッグブック等々評議会承認出版物を発行する為には評議会とそれを管理する常任理事会が必要なのです。

**身近な国の事例:** 去年モンゴルの GSO メンバーが JSO まで来られ、評議会の立ち上げに付いて学びに来ました。彼らは現在、NY, GSO がモンゴル語に翻訳発行したビッグブックを使っています。単価を易く仕上げるために自国出版の意向を伝えたら、自国の評議会と常任理事会を持ったら許可すると云われ、彼らには GSO があるだけで、評議会や常任理事会を始めるにはどうするのか？を相談に来たのです。ワールドサービスは、国と国の評議会の分かち合いを行う集まりです。何も特別難しい話をしているのではなく、私たちの AA 生活にもっとも身近な問題からサービスが始まっていることをご理解頂ければと思います。

**グループと常任理事会～役割分担～:** ハワイのスペシャル・フォーラム(2004 年)のなかで、当時 NY, GSO 所長のグレッグは、集まった AA メンバーたちに対して「私たち GSO の職員は、貴方たち AA メンバーがホームグループを通じて評議会に対し AA 全体でやって欲しいサービスの注文を出さない限り、私たちは基本的には何もしなくても良いのです。だから私たちが仕事をするように、貴方の地域の評議員に注文を出してください。」ということ、この集まりの最後の言葉としてプレゼンテーションしていました。

AA のサービスは、グループがトップの逆三角形と教えて頂いたと思います。この所長の話と同様に、常任理事会は評議会勧告(グループからの注文)を具体化する企画立案及び予算建てをする部門です。故に、常任理事による評議会勧告の実質的活動は、担当理事からの実行委員会編成の呼び掛けや、翻訳等特殊技能の提供をメンバーに依頼することなど、多岐に渡る人員手配や事務的な手続きを担当します。そして評議会勧告を実施する際の主体者は、提案者側のグループ及びメンバー個々が関与したいという資力に還元されます。こうした役割分担が塩梅よく展開されることが理想としてあることをお伝えしておきます。

**グループ各位への協力要請:** 今般、私は常任理事会議長として常任理事会のかじ取り役を引き受けました。時として、評議会機構全体に及ぶことも予測されるその影響力を考えると、その責任の重さを今更乍らひしひしと肌で感じ取っています。残り任期の二年間を、AA 日本全体のしもべとしてより一層働かせて戴く所存でいます。グループ及びメンバー方々のご支援ご提案が何よりの頼りです、よろしくお願ひします。今年から定期常任理事会開催の具体的な取組として

**方針プラン1:** 議事内容に、オールドビジネス(過去の勧告)を設けて、未着手や中途半端はないかを調べ、やり残しが残らないようにします。勿論、ニュービジネス(直近の評議会勧告)も各担当理事に采配を振るって頂きますが、最終的に常任理事会構成メンバーの合意による執行に結び付けます。

**方針プラン2:** 今回、評議会事務局を通じて各地域の地域集會年間予定日程を通知して頂くようお願いしました。これは、常任理事会としてグループへの問い掛けが必要とした際に、効率の良い日程を割り出すためのものです。宜しくお願ひします。

**方針プラン3:** 退任した評議員各位にお願ひがあります。常任理事会の仕事を手伝って頂ける方は、広報、矯正、治療施設、専門家協力、BOX-916 販促、出版等々、やりたい分野を自己申告で評議会事務局迄連絡を下さい。AA 版シンクタンクとして、評議会勧告の内容に従って応募者の中から仕事がお願ひできるようになれば、勧告実現への効率アップは間違いのないと思われれます。

**原点回帰; BackToBasic:** 皆さんは「ビッグブックも読まずに AA メンバー面するな！」とメンバーの前で言われたことはありますか？20 数年前、この私に実際あった話です。

当時、AA に通い始めてから二年を過ぎたばかりの私は、最初のミーティングで貰ったハンドブックを持ってミーティング歩きだけで飲まないタイプでした。それでもグループから役割を貰い、地区委員会や CO 運営委員会に出入りして、身勝手に揚げ足取りのトラブルメーカー的発言を繰り返していた頃の話です。

振り返って思うに、彼は『AA メンバーを名乗るからには、AA 基本テキストであるビッグブックを読み、プログラムをやってから委員会に来るべきでは？』と基本的な事を言いたかったのだと思います。そして、今の私があるのは彼からの勇気ある叱咤に激励され原点回帰のきっかけを頂いたお蔭と感謝しています。それ故に、私も後進の AA メンバーたちにはそう接してあげられるようになりたいと願っています。

## 最後に:

国際的に、AA 評議会承認書籍の1号は「アルコールクス・アノニマス」であり、AA の基本テキスト(ビッグブックの「前書き」p I V を参照の事)です。

私は、ハンドブック(略してHB)はAA が初めてというニューカマー方には丁度良いビッグブックの必需性を周知させるパンフレットだと思っています。そして、自ら AA メンバーと名乗るようになったのなら、必ずやビッグブックを手に自分の物語をその中に見つけ、自らの経験と力と希望を新しく来た人たちに分け与えられようになって欲しいと願っています。

AA 日本常任理事会は、ビッグブックを世に報せ広める役割を担っています。これに関連して、去年12月の常任理事会ではAA.WS社にビッグブックからHBに引用している著作権について曖昧に誤魔化してきた経緯を認めて、正式にこれらに関する確認申請を出すことにしました。

結果、AA.WS社よりビッグブックからHBに引用する事が正式に承諾され、第19回評議会の際に評議員にその案内をしてあります。グループ各位は評議会報告等で確認頂ければと思います。

## ■各地域より

### 月刊ミニコミ誌にミーティング案内

#### 富士のバラグループ ひろし

約1年前に富士のバラグループを立ち上げ、毎月曜日に富士市内で、毎木曜日に富士宮市内でミーティングを開催しています。

グループ立ち上げ時より、ミーティング場の情報やAAの活動が多くの人に届くように、『AA富士のバラだより』を作成し、保健所など関係各所に8ヶ所にお知らせしています。現在も仲間の力を借りながら続けています。

2014年1月より富士ニュース社の御協力をいただき、毎月ミーティング開催情報を載せていただくことになりました。関係者の皆様、ご家族の皆様の御理解と御協力が大変に重要と考えております。

また、病気とも知らずに、どうにもならないと思っている“今、苦しんでいる仲間”に情報が届くよう、活動させていただいています。

アルコール依存からの回復を	アルコール依存症からの回復を目指す自助グループ「AA富士のバラ」は1月中旬次の
日程でミーティングを行う。いずれも午後7時～8時半。	▽2日:日本キリスト教団富士宮教会
AAはアルコール依存症から解放されたという願望の集まり。	▽6日:13日、20日:富士シオンチャペル
称で、自らが飲酒に問題を感じ、酒の補われから解放されたという願望の集まり。	▽9日、16日、23日:選考している。
30日:富士宮中央公民館	
▽27日:ライオンセンター	
AAはアルコール依存症からの回復を目指す自助グループ「AA富士のバラ」は1月中旬次の	
会費は無料だが、毎回回費金を用意している。希望者は直接会場へ問い合わせは	

2013年(平成25年)  
12月28日(土曜日)  
富士ニュースより

## 新聞お知らせ欄にミーティング案内

### 高知グループ みちよ

2013年5月1日の高知新聞「県からのお知らせ」にAA高知グループ紹介記事を掲載して頂きました。掲載にあたっては、高知県地域福祉部・障害保健福祉課の皆様と協力して頂きました。

2012年地元で開催された中四国ラウンドアップ広報をきっかけに、高知グループ主催ステップセミナー案内を、一人でも多くの苦しんでいる本人・家族・周りの友人・医療関係の方に知っていただけたらと、仲間と共に広報活動を行なっていきました。掲載時期の関係もありイベント案内ではなくグループ紹介になりましたが、障害保健福祉課の担当の方はじめたくさんの方の協力により掲載に至りました。今後も目的からそれることなく仲間と共に活動していけたらと思います。

### AA(アルコールクス・アノニマス) 高知グループのご案内

AAは、アルコール依存症からの回復を目的とした自助グループです。「飲酒をやめたい」という思いの方が集まって定期的にミーティングを開いています。匿名での参加や女性だけの会も行っています。ご本人はもちろん、ご家族の方もぜひご参加ください。開催場所、日時についてはお気軽にお問い合わせください。

#### 問い合わせ

AA高知グループ TEL

(18時40分～20時30分)

AA中四国セントラルオフィス TEL082・246・8608

(10時～18時 土・日・祝休み)

## ■JSOより

### AAメンバーの皆様へ

H.K

私は32年前、禁酒が自分に出来るか全く自信のないところで、ミーティングで、職場で、多くの先輩メンバーから教えられ相談になってもらい支えられてきました。

また、新しいメンバーからは自分の過去の姿を教えられ学ばせていただきながら、またいつも励まされながら…。

くもの糸より弱い禁酒への自分の意思を、つなぎつなぎ今日一日と32年間一滴の酒も口にすることなく永眠することができます。

これも本当に、AAとJSOという職場に出会ったからこそ。お礼の気持ちで一杯です。深く感謝いたします。ありがとうございました。

昨年8月にお亡くなりになったメンバーの奥様から、最後の病床の言葉をお伝えいただきました。長年のAAへのご奉仕に感謝します。JSO

編集・発行: NPO 法人AA日本ゼネラルサービス (JSO)

〒171-0014 東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

http://www.aajapan.org js0-11@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金) 10:00～18:00 (土・日・祝) 休